

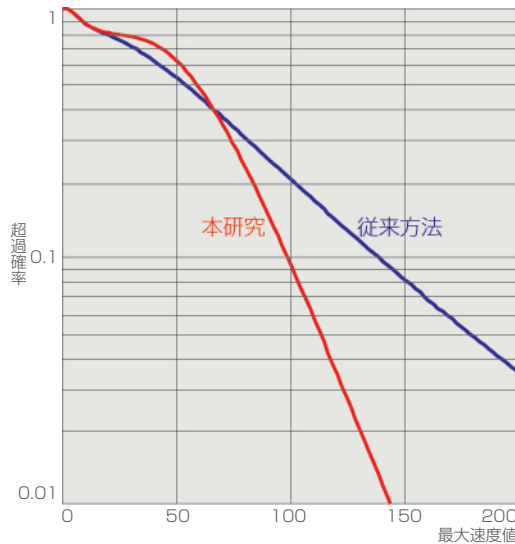
03

地震動強さのばらつきが確率論的地震動評価に与える影響

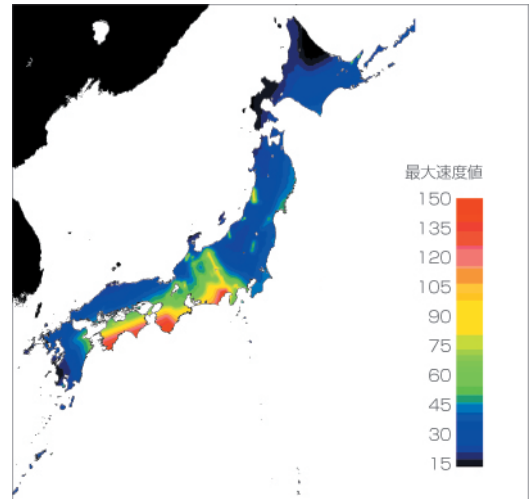
内山 泰生*¹・坂本 成弘*²

Effects of the Evaluation Variance of the Attenuation Relationship on Seismic Hazards

Yasuo UCHIYAMA and Shigehiro SAKAMOTO



高知県における地震動評価結果



再現期間1000年の地震動強さマップ（最大速度値）

研究の目的

将来発生するであろう大地震時に対象地点でどの程度の地震動強さになるのか、あらかじめ把握しておくことは構造物の耐震安全性や地域防災計画を検討するために重要な課題です。確率論的地震動評価では、対象地点に影響をおよぼす全ての地震について考慮し、確率論的に地震動強さを評価します。しかし、従来の方法では再現期間が長い場合の地震動強さを過大評価すると指摘されていました。そこで、本研究では、地震動強さの評価に関する最新の研究成果を用いて、再現期間が長い場合の地震動強さの評価方法について検討を行っています。

技術の説明

地震動強さの評価に影響を与える全ての地震（活断層の分布・過去に発生した地震）を考慮して、対象地点における地震動強さを確率的に予測します。

主な結論

地震動強さの不確定性に関する最新の研究成果を組み込んだ確率論的地震動評価結果は、東海、東南海、南海地震など発生確率が高い地震の震源近くにある都市での地震動強さに大きな影響を与えることを確認しました。従来の方法では過大評価になると指摘されていた再現期間1000年での地震動強さは、本研究による方法で0.6倍程度になることを示しました。

*1 技術センター 建築技術研究所 防災研究室

*2 (株) 篠塚研究所